

遺品の整理や回収を専門に行う「想・エーセント」(帯広市西24南1)の豊川純子さん(35)が2月、「遺品整理士」資格を取得した。道内の女性で第1号。一人暮らしの高齢者の増加などで近年、遺品整理の需要が高まっており、豊川さんは「女性らしい心遣いで、故人やご遺族の気持ちを大切にしたい」と抱負を語る。

資格試験は、昨年9月に設立された遺品整理士認定協会(千歳)が実施。悪質な業者も出る中、遺品整理業界の健全化を目的としている。資格取得には、廃棄物やリサイクル品の取り扱いなどに関する各法規制などを学ぶ必要がある。現在、

道内女性初 遺品整理士に認定

「信頼される遺品整理士として頑張りたい」と話す豊川さん



帯広の豊川さん

全国で「遺品整理士」は約80人。うち女性はその約10人おり、十勝管内では豊川さんに続いて2人目が誕生している。

豊川さんは約2年前、墓石を扱う「墓石堂北海道」に入社し、墓石の販売に加えて遺品整理にも関わるようになった。昨年、帯広で孤立死し2週間後に発見された独居老人の部屋の整理を頼まれた。その際、引き取り手の

「遺族の気持ち大切に」

「誰かがやらなければならぬ仕事」とその重要性を痛感した。日記や写真など故人にとって大切な品だが、遺族には不要というケースもあり、処分について遺族から相談されることも多くある。「処分するのではなく、私に預けるという気持ちで利用してもらえばいい」と話す。

現在も多くの女性が資格取得のための遺品整理士認定協会の通信講座を受けている。同協会事務局次長の沖西祐希さんは「今後、必要が高まる職種なので、資格を望む女性が多くなっていると思う」と話している。

(鳥本初美)